



子どものモデルになりたい

H29. 12. 11 住小：坂井

先週金曜日に、スマイルカーニバルが開催されました。お子さんは、ご家庭でどのような話をしていたでしょうか。「勉強」という言葉を聞くと、国語や算数、体育や音楽等の教科や、道徳・「じんけん」などの学習を思い浮かべるかもしれません。学校では、特別活動と言われている、今回のイベントのような活動も重視しています。自分たちで計画し、準備し、みんなで楽しむ。そして、達成感を味わう。教育目標の「助け合い、進んで学ぶたくましい子ども」の姿です。学年・学級だよりでも具体的な情報提供があるかもしれませんので、ここでは、写真だけお届けします。



スマイルカーニバルの時間は、教職員も各会場を回りました。「あっ、〇〇先生だ」との声があちこちで聞こえます。普段は黒板を背にし、真剣な顔？をして話している教員が、ニコニコ顔で遊んでいます。それを見る子どもたちも、うれしそうです。「スマイルカーニバル」のスマイルは、こういうことだと気付いた次第です。

学校（教室）で教職員が見せる表情や態度が、子どもたちに影響を与えないはずはありません。一生懸命に仕事をする。楽しそうにおしゃべりする。子どもたちのよくない行動に対して、真剣に諭す。（ときには、笑顔での注意もあるかな）。嘘はつかず、こちらが間違ったら謝る。子どもたちの前で大人同士が仲良くする。家庭でも地域でも、そのようなよりよく生きる大人の姿に囲まれて、世代を超え子どもたちは育ってきたのだと思います。聖人君子にはなれませんが、子どもたちと楽しみ、少しの頑張り続けてみたいと思います。

スマイルカーニバルのことから、話が広がってしまいました。連載「子どもと付き合う」も、今回が5回目。そろそろまとめです。次回は、最近読み始めた1冊の本「私たちは子どもに何ができるのか」（ポール・タフ著）をご紹介しますながら、大人の大切な役割について考えてみます。

